

学生の発想 山村再生に

長和町と東京農業大（東京都）が連携して同町の活性化の在り方を探る事業「山村再生プロジェクト」の本年度1回目が22日、町内で3日間の日程で始まった。初日は同大食料環境経済学科の2〜4年生6人が、長久保の農地で野菜の作付けをした。同事業は文部科学省の補助を受けて2008年度から続け、補助が昨年度で終了。「より具体的な活性化策を打ち出すような成果につなげたい」と、本年度は独自に継続し、月1回、学生たちが町を訪れる。

同事業は、町民と同大の学生たちの交流や地域活性化を目的に08年11月に始まった。町は、低木や草が茂った遊休荒廃農地約2・5畝を地主から無償で借り、学生たちが鳥獣対策用の柵を設置したり農作業をしたりしている。炭焼き体験や植林にも取り組み、

感じた課題や提案を順次、報告書にまとめてきた。学生たちはこの日、長和町古町の農業黒沢勇人さん(54)らから助言を受けながら、耕運機を使って畑を耕したり、コマツナやホウレンソウの種をまいたりした。23日は町内のボランティアア団体との植

長和町と東京農大 活性化事業継続



長和町の畑で野菜の作付けをする東京農大生たち

月1回交流 作付けや植林体験も

町産業振興課によると、本年度の事業費は1100万円、東京農大が1千万円、町が100万円を負担する。野菜の収穫期には、町内の祭りに学生が参加することなども検討する。事業は当面、来年度まで続ける計画で、同課は「学生の柔軟な発想を生かした活性化の提案を期待したい」としている。

北佐久農高生「苦勞して育てました」

連休の佐久平駅 パンジーで彩り

北佐久農業高校(佐久市岩村田)の生徒と佐久市職員は22日、大型連休で訪れる観光客らを迎えようと、パンジーを植えたプラン



種まきから約7カ月間をかけて育てた。佐久穂町大日向の滝上まいさん(17)は「苦勞して育てたので、たくさんの方が見てくれるとうれしい」と笑顔で話した。同駅では1998年以降、毎年秋に同校の栽培したコスモスを並べているが、秋以外に飾るのは初めて。県が進める「観光おもてなし宣言」で、市内の観光事業者や



肖像画など60点 上田で林俊衛展

来月8日まで

上田市出身の男性画家、林俊衛(1895〜1945年)の作品展が同市古安曾の信濃デッサン館別館「槐多庵」で開かれている。肖像画や風景画など約60点を展示。信濃デッサン館建設に協力した同市

油彩画などが品展

の美術評論家さんが好んだ窪島誠一郎館会に林俊衛とてほしい」と林は10代でキスム(無政府を持つ大杉栄運動家と交友の肖像画を描展では久板を像)もある。千葉県の外

イタリ、れた日、さん(

で表現

演

